

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2023年5月2日放送分・伊勢堂下／半子町】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 伊達政宗の時代に整備された「四ツ谷用水」。青葉区郷六で広瀬川から取水し、同区福沢町で梅田川に吐水するまでのおよそ8kmの流れを、歴史家の木村浩二さんと追いかけています。…と言いながら、今回は流れを離れて少し寄り道。やって来たのは、青葉区子平町。子平町郵便局の一角に、今月の辻標「伊勢堂下／半子町」があります。
- 伊達政宗は伊勢神宮からの分霊を当時の荒巻村に祀り、山号を伊勢堂山と称しました。東北福祉大学北山キャンパス裏手には、伊勢神明社の古いお社が残っています。その伊勢堂山の下なので、この辺りは伊勢堂下と呼ばれたのだと思われます。

- 半子町というのも、変わった名前ですよね？木村さんによると、ここは芋沢方面(国見街道)に通じる街道沿いの町でした。慶安4年(1651)2代藩主・忠宗が大筒組として取り立てた旗本足軽衆がここに配置されたため、大筒町とも呼ばれました。大筒とは、大型の銃火器…大砲の事ですね。足軽の中でも、優秀な人が選ばれたようです。この名誉を表すため、額の中剃りを半分残した事から、その髪型の名前「半甲」にちなんで半子町という名前になりました。江戸時代の絵図には「星場」と呼ばれる射撃の演習場も描かれています。いまは閑静な住宅街である子平町に、足軽砲術隊の銃声が轟いていたと想像すると妄想しつつの歴史散歩もいっそう楽しくなるはずです。

〈文・佐々木淳吾〉

